



展示の前に集う大岩時田菊の会

「井出家高麗門と菊花展」

15日まで

大岩時田菊の会が出品

富士宮市狩宿の下馬 同会の会員たちが丹精
 桜のある井出家と大岩 を込めて育てた菊の花
 時田菊の会（渡邊恭二 50鉢余が飾られ、貴重
 郎会長）の協働による な建造物と色とりどり
 秋の催しとして、「井 の花が織りなす風情豊
 出家高麗門と菊花展」かな光景が、訪れる市
 が15日まで、井出家高 民の目を楽ませしてい
 麗門で開かれている。最終日の展示は午

前まで。

狩宿の井出家は、鎌
 倉時代の初めに富士山
 麓で行われた「富士の
 巻狩り」に深い関わり
 を持つと伝えられる名
 家。巻狩りの際に源頼
 朝が馬から下りた所と
 される狩宿の下馬桜は
 国指定特別天然記念
 物、井出家の高麗門・
 長屋は市指定有形文化
 財となっている。

大岩時田菊の会は同
 市大岩3区1町内の菊
 愛好者で構成するグル
 ープで、顧問の小林良
 汎さんが講師を務めて
 いる。同会では毎年、

地元の大岩時田八幡宮



高麗門に色とりどりの菊が並ぶ

令和2年11月5日（木）岳南朝日新聞より

で菊を展示するととも
 に、幅広い市民に観賞
 を楽しんでもらえるよ
 う同菊花展に出品して
 いる。本年度も10月31
 日から同八幡宮で菊を
 展示し、今月3日に井
 出家高麗門へと作品を
 移した。
 展示されているのは
 クッションマムと呼ば
 れる鉢植えの菊で、黄
 白、赤、紫など色とり
 どりの美しい花を咲か
 せている。渡邊会長は

「1つの鉢の中に菊の
 根や花、枝葉を家族の
 多くの方々に見たい
 ように調和させるのが
 魅力で、活動を通して
 会員相互の交流も楽し
 話していた。」